紙・包装資材
保険代理業・不動産
株式会社 赤澤紙業
仙台支店／〒984-0015 仙台市若林区卸町2丁目12-11
TEL.022-235-4251㈹ FAX.022-232-4256

2024
11月1日
金曜日

建設新聞

発行所　建設新聞社

本　社	仙台市青葉区春日町7－5	TEL022(221)4601
青森支局	青森市古川1丁目21－11	TEL017(722)8631
岩手支局	盛岡市菜園1丁目3－6	TEL019(651)8045
秋田支局	秋田市山王4丁目3－10	TEL018(862)6921
山形支局	山形市松波1丁目10－16	TEL023(641)2800
福島支局	福島市宮下町17－20	TEL024(534)0138
東京支局	東京都江東区豊洲1－3－1	TEL03(5547)1367

construction 建設ニュース

技術力による選定の制度改善を

納期平準化の重要性共有

東北整備局と意見交換

建コン協東北

建設コンサルタンツ協会東北支部（菅原稔郎支部長）は10月30日、仙台市のホテル白萩で東北地方整備局との意見交換会を開いた。この中で、働き方改革推進に向けて双方で納期平準化の重要性を共有し、整備局側が国債等の活用に一層取り組む姿勢を示した。また、建コン側は安定的な予算と適切な履行期間の確保を要望するとともに、総合評価落札方式、プロポーザル方式など技術力による選定のさらなる制度改善を求めた。

意見交換には建コン協東北から菅原支部長のほか、石塚三雄副支部長、松尾新二朗副支部長兼技術部会長らが出席。東北整備局か、らは企画部の宮本健也部長、髙松昭浩統括防災官、佐藤彰技術調整管理官、大澤尚史技術開発調整官らが顔をそろえた。

宮本部長は、「一番の課題は納期の平準化だと認識している。整備局としても改善に向けて取り組んでいるため、引き続きコミュニケーションを図りながら協力していきたい。併せて、度重なる自然災害への対応など業界が重要な役割を果たし続けるために、横ばいとなっている予算の増額での確保に努める」とあいさつした。

菅原支部長（左）と宮本企画部長

菅原支部長は、自然災害対応やインフラDXなど拡大する業界の役割を強調した上で「重点事項の担い手確保、働き方改革推進などは受発注者一体となって取り組まなければ解決できない。加えて、総合評価落札方式の加点項目にもなっている賃上げに向けては、安定的な企業経営が必要だ。賃上げが可能な事業量を確保してほしい」と訴えた。

今回は①担い手確保・育成のための環境整備②技術力による選定③品質の確保・向上④災害対応に向けた環境改善④DX推進の環境整備―などのテーマに沿って意見を交わした。

このうち、建コン協側は担い手確保へさらなる平準化や適切な履行期間確保などを要望。併せて、物価高騰などを踏まえた安定的な予算確保や、複数年契約における技術者単価引き上げに合わせた契約変更などを望んだ。

整備局側は、国債・翌債、繰り越しなどの一層の活用により平準化を進めるとともに、適切な履行期間確保を事務所に指導していくと回答。さらに「技術者単価のスライドは全国的な課題にもなっているので本省に伝えるが、業界からも声を挙げてほしい」と提起した。

技術力による選定をめぐっては、建コン協側が▽計画系プロポーザルにおける技術単価の引き上げに応じた業務規模拡大▽高度な技術提案書を作るため、作成期間の延長▽国土交通省登録資格組み合わせ評価の適切な運用▽地域コンサルの受注機会創出に向けたチャレンジ型、施工能力評価方式などの業務規模（2000万円以下）拡大―などを求めた。

これに対して整備局は、それぞれ検討・周知を進めるとするとともに、「組み合わせ評価のフォローアップを継続する」と回答。技術提案書の作成期間延長や地域企業の受注機会創出に向けた業務規模拡大については、「皆さんの意見も聞きながら検討したい」と応じた。

品質の確保・向上に関しては、受発注者合同現地踏査や実施した際の契約変更、入札調書の速やかな公開、特記仕様書へ技術提案履行不要に関する項目の追記などを要望。災害対応については、対応にかかった費用の適切な計上、DX推進をめぐっては電子契約システム活用によるペーパーレス化や業務成績評定点のHPでの公表促進などを望んだ。

このほか、早期発注、翌債業務の4月以降の契約分で、「3月31日までの履行業務は手持ち業務に含めない」こととなっているため、緩和措置を求めた。

適正工期確保やロット大型化要望

東北農政局と意見交換

土地改良建設協

土地改良建設協会（押味至一会長）は10月30日、仙台合同庁舎で東北農政局と意見交換を行った。東北地方に拠点を置く会員企業39社と農政局職員が参加し、時間外労働の上限規制を順守するための適正工期の確保や発注ロットの大型化、WTO案件の増大などの協会側の要望について意見を交わした。

同協会の塩屋俊一専務理事は4月からの時間外労働上限規制に触れ「働き方改革は、われわれ建設業界だけではなく、発注者側にも求められている。お互いの働き方改革を考えるWin―Winの形で進めていかなければならないと考えている」と述べ「そのための生産性の向上に向けた提言・提案などをしていきたい」とあいさつした。

7月に着任した菅家秀人農政局長は、「農水省は来年度予算の概算要求で対前年度比118・8パーセントとなる5301億円を要求した。これは先端的な技術を活用した生産方針、スマート農業との適合に配慮しつつ、最新の技術的知見を踏まえて農地や農業水利施設の整備を進めるためのものだ。意見交換を踏まえて、発注者の責務として、適正な工期の設定や早期発注の取り組みを進めていく」と述べた。

意見交換会では初めに、東北農政局が工事発注に関する改善点や管内国営事業の実施状況を説明。協会側からも、余裕工期の設定などについて、過去6年間で最高の67パーセントに達し、初めて半数を超えたことを報告。

一方、余裕期間の日数は設定している工事においても1カ月以上の余裕期間を設定しているのは38件中12件（32パーセント）。余裕期間が設定されていない工事を含めると、全体57件中45件（78パーセント）が1カ月未満のため改善してほしい―などと提案した。

その後、会員各社から大きく分けて①働き方改革・適正工期②工事規模・発注方法③設計・積算④入札契約⑤工事実施・設計変更―の5つを要望。

働き方改革については農政局は「4週8閉所を実施するための早期発注、余裕期間の設定などで適正な工事期間を確保する。困難である場合は適切な工事量や内容とすること。二次製品の製作期間を確保することで4週8閉所を確保していきたい」と回答。

過半数の会員が要望した発注ロットの大型化・技術者要件の緩和は、「一括審査方式やECI方式について、該当する案件がある場合に活用を検討し、発注ロットの大型化に努めていく。配置技術者についても工事の内容を踏まえ、難易度が高い工事を除き、緩和を図っている」と述べた。また発注予定表への配置技術者の要件の表記についても「記載を進めている」と返答した。

宮城県土木施工管理技士会ほか

若手土木技術者37人が受賞

第25回土木技術奨励賞

宮城県土木施工管理技士会（廣谷秀男会長）、宮城県建設業協会（千葉嘉春会長）、みやぎ建設総合センター（廣谷秀男代表理事）が主催する第25回土木技術奨励賞の受賞者が決まった。今回は論文の部、施工の部、25周年記念特別賞に計105点の応募があり、受賞者37人を選定。表彰式は18日に、仙台市のパレスへいあんで開催する。

この賞は、若手土木技術者の技術向上などを目的に2000年に創設。宮建協に属する建設会社に勤務する40歳未満の土木系若手技術者を対象としている。応募点数は論文の部33点、施工の部54点、25周年記念特別賞18点。

この中から選考委員会（委員長・西村修東北大学教授）が受賞者を選考した結果、最優秀賞は論文の部で佐藤海都氏（丸本組）の「旧橋梁で繋いだ建設業と地域社会」、施工の部で鈴木隆ノ介氏（小野良組）の「防波堤の撤去に潜む危険と安全管理」、25周年特別賞で伊藤卓也氏（春山建設）の「職場体験のススメ」がそれぞれ選ばれた。

最優秀賞以外の受賞者、件名は次の通り（敬称略）。

【論文の部】

◎優秀賞

▽酒巻美沙都（深松組）＝土木業界の女性技術者の活用▽京兼昂矢（丸か建設）＝設計図書のCIM活用推進▽鈴木吉寛（丸本組）＝橋梁点検の課題▽髙橋慶匠（村田工務所）＝より良い建設業を目指して

◎佳作

▽髙坂和希（熱海建設）＝建設業と地域とのコミュニケーションの必要性▽佐々木勇生（奥田建設）＝一般的論理で見た経営学視点で見た建設業▽佐藤嘉久呂（奥田建設）＝AIによる安全性の向上▽森京介（小野良組）＝建設業における休憩時間の役割▽髙橋凜（渡辺サービスセンター）＝男性の育児休業と建設業の新たな姿（2024）

◎努力賞

▽坂本真緒（熱海建設）＝持続可能な社会と土木▽加藤一（奥田建設）＝大規模現場における安全管理▽遠藤哲万（丸本組）＝AIシステムの導入による作業の効率化▽新田拓也（若生工業）＝未来の災害に備える

【施工の部】

◎優秀賞

▽齊藤稜（橋本店）＝難条件における工程管理・安全管理の工夫▽庄子甫史（橋本店）＝基礎捨石の流出防止対策による工程管理▽山田智也（橋本店）＝工程・品質管理における工夫▽雫石翔太（丸本組）＝AI画像解析技術を用いた工事全体の最適化

◎佳作

▽早坂兼（佐藤工務店）＝3次元設計データを活用した生産性向上▽赤間翔（橋本店）＝3Dモデリングを活用した現場管理▽小野﨑拓哉（橋本店）＝3次元データを活用した土量の管理▽高橋広樹（橋本店）＝砂防堰堤工事におけるSDGsへの取組・環境負荷の低減▽阿部冬威（深松組）＝再生資源化における環境負荷低減と生産性向上への影響▽阿部優太（丸本組）＝安全管理の強化

◎努力賞

▽安住誠（熱海建設）＝安全管理の進化▽安保知（奥田建設）＝ため池改修における堤体盛土の品質管理▽相澤拓斗（佐藤工務店）＝現場内巨石の有効活用▽相沢航平（橋本店）＝シールド工事における安全管理▽木村樹（丸本組）＝低土被りトンネル施工時の安全対策

【25周年特別賞】

◎優秀賞

▽伊藤和輝（橋本店）＝建設現場における週休2日制の実現にむけて▽金戸友太（丸本組）＝土木のイメージを変える▽津田旭（丸本組）＝土留め・仮締切工における端部止水方法

◎佳作

▽平形徹（熱海建設）＝女性に対する作業環境の改善▽高橋佑生（橋本店）＝難条件施工箇所における工程管理・安全管理の工夫▽髙橋正人（丸か建設）＝休日を休むために

コンステックホールディングス

仙台国際センターで11月6日～7日開催

建造物の長寿命化支援技術を紹介

RC造、S造や歴史的建造物の調査診断、補修・補強、環境対策を行うコンステックホールディングス（大阪市　安部俊彦代表取締役社長）は11月6日、7日の2日間、仙台国際センター展示棟でコンステックグループ「テクノフェア2024」を開催する。

同フェアは、コンステックホールディングスグループの、コンステック、建設環境コンサルティング、グランテック、コーナンシステムズ、バウエンジニアリングの5社が一堂に会し、建造物の長寿命化を支援する技術・ソリューションを紹介する。

当日会場は、安全性・防災機能の確保（鉄骨造工場向け改修、制振改修、耐震改修）、耐久性向上、機能性向上、歴史的建造物、地盤（屋外展示）、橋梁、調査・診断の7つのブースを準備。ターゲットを明確にした展示内容としている。

このうち機能性向上ブースでは有害物質対策として、コンステックAGバブルシステム「泡噴出・集じん装置付き湿式ディスクグラインダーケレン工法」を紹介する。同工法は、石綿（アスベスト）を含有する建築用仕上塗材撤去の際に発生する粉じんを、泡によって絡め取りながら湿潤化することで飛散・漏えいを防止し、同時に集じん装置で吸引するもの。石綿の飛散を最小限に抑え、無機系の下地調整材を含めて除去できるのが特徴だ。会場では、コンステックホールディングスグループが持つ最新技術を一度に体験できる。

また、両日ともに、特別講演が行われる。

詳細は同社HPニュースまたは上記のQRコードより。

総会ダイジェスト

防草ブロックの普及認知拡大

東北防草ブロック工業会

東北防草ブロック工業会（TOWBA　舟田詔文会長）は11月29日、仙台市で第4回定期総会を開催した。

舟田会長は「インフラは生活を守るために大事なものだ。会員の力を結集し、東北の地で防草ブロックの普及認知拡大に努めたい。来年度には全国防草ブロック工業会の総会を仙台市で開催することが決まっている。会員の協力をお願いする」とあいさつ。また、新会員として、丸吉コンクリート（山形県白鷹長町）の塩田元代表取締社長とトーセキプロダクツ（秋田県潟上市）の高野仁代表取締社長が紹介された。

舟田会長

引き続き議事に入り、2025年度の事業計画を承認。25年度の事業計画には▽各県での展示会等の積極的参加▽JWBA第4回キャンペーン配布営業ツールを用いた周知活動▽EE東北25出展▽全国防草ブロック工業会総会の仙台開催―などを盛り込んだ。

コンステックグループの多彩な技術と工法が集結！
テクノフェア仙台2024
仙台国際センター展示棟　仙台市青葉区青葉山
11/6(水)→11/7(木)
10:00-17:00　10:00-16:00
コンステック　建設環境コンサルティング　グランテック　コーナンシステムズ　バウエンジニアリング
有料駐車場有
仙台市営地下鉄東西線 国際センター駅 徒歩1分
会場
入場無料!!
事前登録不要
詳しくはコチラ▲
▼ 特別講演 ▼
11/6 13:30~
高橋 典之 先生
東北大学大学院 准教授
建築物の長寿命化に資する技術の過去・現在・未来
～ユーザーに適切な情報を提供する DX ～
11/6 14:30~
齊藤 隆典 氏
北海道立総合研究機構建築研究本部
AI 画像認識を活用した RC 造建築物外壁の点検・調査支援技術の開発
11/7 13:30~
大塚 悟 先生
長岡技術科学大学　教授
能登半島地震による液状化被害の特徴